



デフリンピック閉幕

11月26日、日本で初めて開催された「東京2025 デフリンピック」が閉幕ました。11月15日から12日間全力で成果を発揮した選手たちの熱い戦いがありました。日本選手団は、過去最多となる51個のメダルを獲得しました。内訳は、金メダル16個、銀メダル12個、銅メダル23個です。競技別では、水泳の12個が最も多く、次いで陸上の11個、そして柔道7個、空手が5個と、種目数が多い競技で多くのメダルを獲得しました。また、主催者発表によると、今大会の参加国・地域は79に上り、期間中の総観客数は目標の10万人を大きく上回る約28万人を記録しました。現地で応援した生徒は、「男子バスケットと男子バレー、ボールを観戦しましたが、迫力があって、とてもおもしろかったです！かっこよくて、感動しました！」と、目を輝かせて報告してくれました。

この大会について、文部科学省スポーツ庁のホームページには大会概要が、東京2025 デフリンピックホームページにはハイライト(動画)が掲載されています。ぜひ、家族でこの熱狂を振り返ってみてくださいね。

東京2025 デフリンピックホームページ

<https://deaflympics2025-games.jp/Watch-the-Games/highlights/#gsc.tab=0>



文部科学省スポーツ庁ホームページ

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatestop08/list/1371890_00002.html



デファスリートを紹介！

聴覚障害のあるアスリートをデファスリートといいます。今日は、得意なスポーツを活かしながら様々な職業に就く3名のデファスリートを紹介します。

競技	名前	職業	この職業を志した理由ややりがい
バレー ボール	狩野 拓也 かのう たくや	医師 （十全総合病院耳鼻咽喉科）	誰かの優しさに助けられてきたが、「借りっぱなし」は性に合わない。 恩返しをしたい。
空手	小倉 涼 おぐら りょう	教員 （埼玉県立坂戸ろう学園）	児童の成長を間近で見ることがで きるのは楽しい。その成長を創り支 えられる立場にいられるのが幸せ。
柔道	佐藤 正樹 さとう まさき	会社員 （ケイアイチャレンジド アスリートチーム）	デフ柔道を広めたい。今までの経験 をたくさん的人に伝えたい。ろうの子 のロールモデルになる。

他にもたくさんの選手がいます。『私の好きなスポーツで活躍する選手ってどんな人？』『得意なスポーツを続けながら働くことってできるの？』と興味を持って調べてもらえると嬉しいです。

(出典: 読売KODOMO新聞2025年11月13日発行 第762号,
東京forward2025 <https://www.tokyoforward2025.metro.tokyo.lg.jp/>)

